

仕事納め式にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

2022年は、まさに変革の節目の一年となりました。

2月にロシアのプーチン大統領がウクライナに対する武力攻撃を開始し、すでに300日が経過していますが、この暴挙は国際社会への挑戦であり、また核保有国による一方的な現状変更に強い憤りと怒りを覚えますし、改めて外交・防衛の重要性、平和の尊さを実感させられる節目となりました。さらにこのことが引き起こした農産物や原油をはじめとする輸入物資の高騰が、世界経済を根底から揺るがし、国内経済にも円安ドル高の影響が直撃し、あらゆる部門において深刻な事態となりました。

一方、新型コロナウイルスの感染状況は、いまだ第八波の渦中にありますが、当初のような恐怖を伴う未知のウイルスではなくなり、感染力は高いものの重症化リスクは心配するほどでもなく、政府は行動制限を課すことを避け、経済との共生を図るウイズコロナ戦略が継続されています。このことによって、平戸市における様々な市民活動や恒例イベントも再開され、元気な平戸を取り戻しつつある状況にあります。

ここで改めて今年を振り返りますと、周年行事といたしましては、たびら昆虫自然園の開園30周年、平戸オランダ商館開館10周年、そして平戸瀬戸市場オープン10周年の記念イベントがそれぞれ開催され、多くのお客様をお迎えし、平戸の魅力を再確認できる有意義なイベントとなりました。

また新たなスタートを切ったプロジェクトも数多くありました。

まず公的施設としては、大島村診療所および歯科診療所のリニューアルオープンです。歯科診療所では新たに佐世保市から岡 真吉先生と井上賢悟先生にお願いし、支所や公民館と一体型になった医療・福祉・保険サービスが可能となりました。

民間部門では、ひらど新鮮市場株式会社において「海に見えるごはん屋」がオープンし、新たな観光と物産のスポットとして連日行列ができるなど大きな話題づくりに貢献しています。さらに平戸瀬戸市場に面した田平ターミナルビルには、県立大学生が経営するスイーツショップ『WeCH』が開店し、多くの消費者や観光客の別腹を満たしてくれています。これに加え、平戸スイーツと言えば、平戸商工会議所と平戸市菓子工業組合5社による新商品『平戸百菓繚乱』が完成し、「長崎デザインアワード2022」を受賞しましたことは、喜ばしい快挙となりました。これは、台湾台南市で生産されるドライマンゴーを活用し、松浦家に伝わる『百菓之図』を復刻し、現代風にアレンジした商品であり、統一したデザインや物語性などが高く評価されたものです。

また高く評価された平戸物産と言えば、平戸生まれの長崎和牛が10月に鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会において3大会連続の優等賞を獲得することができました。具体的に申し上げますと、繁殖雌牛群で第六位、総合評価群で第四席という快挙は、これまでの繁殖農家の皆様の自己研鑽やご苦勞に見事に応えるものであり、また今後の平戸畜産業界に大きな希望をもたらすことになりました。

それからスポーツの分野で幾つもの新しい展開の幕開けとなりました。

まず、プロ野球チーム「福岡北九州フェニックス」が平戸を合宿地として選んでくださり、7月には熊本県を代表する火の国サラマンダーズとの公式戦が三日間繰り広げられ、プロならではの

のハイレベルの熱戦を鑑賞することができました。同球団は来年以降も平戸市を合宿地に選定し、公式戦も計画してくださっています。

さらに新たな取り組みとしましては、ごみ拾いをスポーツにした「スポGOMI 甲子園長崎県大会」が千里ヶ浜海水浴場で第一回目大会として開催されました。この時、見事優勝した北松農業高校のチーム「ヌコ」が県代表として、先日 12 月 26 日に開催された全国大会に出場されました。環境美化とスポーツ競技を組み合わせたこの大会は、今後も広がっていくことになるでしょうし、新たな交流イベントとして注目されます。

それから本市の児童・生徒のスポーツ分野での活躍につきましては、空手や相撲など県を代表して全国出場を成し遂げる快挙が相次いでいることはご承知の通りです。そうした中、12 月 26 日に行われた全国小中学校リズムダンスふれあいコンクールにおきまして、規定曲部門で、大島中学校「Team 大島 17」が第二位に、自由振り付け部門で中部中学校「Nexus Chubu22」が第三位入賞を見事果たすという、嬉しい知らせが届きました。それぞれの生徒諸君の努力や指導に当たられた先生方及び保護者の皆様方のご尽力に心より敬意を表したいと思います、

そして何よりスポーツと言えば、平戸市紐差町出身の平戸海関の活躍に触れなければなりません。中学卒業後、境川部屋に入った平戸海関は、わずか 6 年目にして入幕を果たし、なんと九州場所では初入幕で勝ち越しを決めるという快挙を成し遂げました。このことがどれだけ平戸市民に勇気と感動を与えるとともに、平戸の知名度向上に寄与されたか図り知れません。今後とも平戸海関の活躍に心からの応援を続けてまいりたいと思います。

このようにコロナ禍であっても、元気で躍動感あふれる平戸市には、外部から連携を求める事業者が多方面から手を差し伸べています。

企業の新規進出を支援する株式会社 Wiz、有翼再利用型ロケットの設計と水素エネルギー開発供給企業の株式会社スペースウォーカー、国内大手企業群とローカル 5G で提携している国際的半導体企業の株式会社トリプルワンなど、いずれもこれからの未来を開拓し続ける企業経営者が平戸市の持つ安全な自然環境や治安の良さ、市民の人柄などを高く評価してくださり、ともに未来創造に取り組もうと連携を呼び掛けてくださいました。まさに私たちは、自らが想像している以上のポテンシャルを有している自治体なのです。

そしてその評価は、イタリア発祥の「地域まるごとホテル」で世界から注目を集めている『アルベルゴ・ディフーズ・タウン』として平戸市が国内初の認証を受けることを実現しました。こうした背景には、これらの原動力となっている平戸観光協会がDMO、DMC認定を獲得したことによってなせる業であると思います。これまでの取り組みが、新たなスタートアップとして次の世代の価値を生み出すバージョンアップとなって世界が注目し評価している表れとなっています。これに加えて、長年にわたり地域で受け継がれてきた平戸ジャンガラが、ユネスコ無形文化遺産として登録されたことも、その具体事例ではないでしょうか。こうした先人から受け継ぐ遺産についても、将来世代への平戸の宝物として持続可能性を保障してまいりましょう。

一方で、本市が取り組んでいる「ゼロカーボンシティ平戸」にも大きな期待が寄せられつつあります。有限会社鶴丸設備による高純度バイオディーゼル燃料は、家庭や事業所で廃棄されたてんぷら油を再利用して精製されたもので、10 月には日本航空株式会社が長崎空港で運用する車

両で国内初の実証実験がスタートしています。また平戸市森林組合と本市が進めてきた木質バイオマス熱利用事業も実用化が進められており、化石燃料を使わない循環型のエネルギー革命がこの平戸から徐々に広がっています。また、館浦漁業協同組合では、木下製網株式会社と株式会社テイジンが連携し、巻き網漁船が使用したPET漁網を完全リサイクルする事業に取り組むこととなりました。これは日本初の取り組みでもあり、まさにSDGsの具体事例が平戸市から次々と生まれています。

今年を振り返って、これだけたくさんの事業が平戸市を舞台に展開していることは、大変誇らしいことでもあり、またそのほとんどが民間事業者との連携によって生み出されたものであることは喜ばしい限りです。まさに「市民が主役、行政が脇役」のまちづくり、モノづくりの実践が実を結んだと言えると思います。

さて今さら申し上げるまでもなく、人口減少という課題は全国津々浦々、全ての自治体の悩みでもありますし、これを劇的に解決する処方箋は簡単には見出せません。しかし、交流人口や関係人口をより拡大していくことや、少ない人口でも一人当たりの所得を増やし、幸福度を増していく取り組みこそが持続可能な社会の構築であると確信しています。

来年の4月以降は、平戸市総合計画後期計画のスタートとなりますが、今年がその起点にふさわしい節目の年であったことを、職員一人ひとりが再確認し、さらなる努力精進を重ねていただきますよう期待しています。

そして、こうした夢あふれる平戸市の未来像を、年末年始に再会する親戚や友人の方々と語り合い、十分に英気を養いながら、新年度に向けた活力を充電していただきたいと思います。その一方で、くれぐれも飲酒運転だけは絶対にしないよう固く心に刻んでいただくとともに、暴飲暴食によって健康が損なわれないよう注意してください。

最後になりましたが、本日は山田能新議長、神田全記副議長はじめ議員各位におかれましては、わざわざご臨席を賜りご激励をいただきましたこと誠にありがとうございました。

来年も引き続きご指導ご助言くださいますようよろしくお願い申し上げます。

以上をもって仕事納めのご挨拶と致します。